

第38回アジア太平洋計量計画総会の開催

2022年11月28日から12月2日の5日間、産総研臨海副都心センターにおいて、第38回アジア太平洋計量計画（APMP）総会及び関連会議が開催され、NMIJはホストとして総会の運営に協力しました。

APMP総会は、アジア太平洋地域を中心とする加盟国及び経済圏が毎年交代でホストを務めており、現地参加を原則としていましたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によるパンデミックが影響し、3年ぶりの対面開催となりました。

徹底した感染対策のもと、現地参加者を主要メンバーに限定する一方で、シンポジウムは日英同時通訳に対応したオンライン配信とし、専門や国籍に関係なく幅広い参加者に向けて情報を発信するなど、数々の新しいスタイルを取り入れました。

会期中は、執行委員（EC）や各技術委員会議長による活動報告などを目的とした定例の会議に加え、昨今、世界中で話題を集めているDX（デジタルトランスフォーメーション）に関するワークショップが開かれました。また、11月30日に行われたシンポジウムでは、“サステナブル社会を支える計量標準”と題し、NMIJから3件、フォーカスグループから3件の報告がありました。海外や遠方の地域の方々に配慮し、オンラインでの参加を可能としたことから、現地参加59名を含む合計216名を迎えた大規模な開催となりました。

今回の総会では、3年間議長国を務めた中国のNMI（国家計量標準機関）である中国計量科学研究院（NIM）から、韓国のNMIである韓国標準科学研究院（KRISS）へと運営の引継ぎが行われました。NMIJは、これまでに2回議長国を担当し、現在は、電磁界標準研究グループ森岡健浩グループ長が執行委員を、阿部恒上級主任研究員が測温技術委員会において議長（TCT chair）を務めています。今回新たに、物理計測標準研究部門の保坂一元研究部門長が時間・周波数技術委員会（TCTF）の議長に選出・承認されました。NMIJは、今後も引き続きAPMPの活動に幅広く貢献していきます。



第38回APMP総会までAPMP議長を務めたNIMのFANG Xiang 院長と白田孝総合センター長



第38回APMP総会及び関連会議の様子